

## 2) 許可病床数

許可病床数についてみると、全体では「500床以上」(31.8%)が最も多く、次いで「300床～499床」(29.8%)、「200床～299床」(12.6%)となった。なお、平均は404.9床(中央値354.5)であった。

「入院時医学管理加算」の届出施設では「500床以上」(51.4%)が最も多く、次いで「300床～499床」(41.9%)となっており、許可病床数の平均は528.6床(中央値500.0)と大規模の病院が多かった。「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では「300床～499床」(33.3%)が最も多く、次いで「500床以上」(20.6%)となり、許可病床数の平均は342.4床(中央値307.0)であった。「入院時医学管理加算」および「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設と比較すると、大規模病院の割合が低かった。「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では「500床以上」(50.6%)が最も多く、次いで「300床～499床」(32.3%)となり、許可病床数の平均は519.0床(中央値500.0)と大規模の病院が多かった。

図表 5 許可病床数

